



Internal Medicine Communications

～自治医科大学内科通信～

2015年11月号

自治医科大学内科通信の読者のみなさんへ

こんにちは。自治医大内科通信第6弾、11月号の配信です！ますます肌寒くなってまいりましたね。来週はもう12月、年の瀬ですね。

宴会の季節、楽しみだすなあ！

それでは、はじめますかいな。



今回は緩和ケア科の紹介をします。

緩和ケア部のご紹介

丹波嘉一郎

皆さんの大学では、緩和ケアをどのくらい教わっているのでしょうか？「たっぷり」と答えられる方は、そう多くないと思います。なぜならば、文科省の医学教育モデルコアカリキュラムには、緩和ケア関連の項目が少ないからです。その一方で、厚労省の定めた医師国家試験出題基準には、緩和ケア関連の項目がたくさんあります。

私の色眼鏡で数えると、緩和ケア関連の医師国試の出題数はここ9年を通して

平均8%以上に及びます。インフォームドコンセントやコミュニケーションスキルなどの問題は、正解率の中央値が95%を超える平易なものが多いです。しかし、鎮痛薬や進行がん関連の臨床問題などは、基本的な内容であるにもかかわらず、正解率が7割台、つまり重箱の隅を突くような小児科の正解率とほとんど変わりません。

自治医科大学では、日本財団の寄付講座として「全国標準で使える緩和ケアカリキュラムを作成し普及させる」という条件で2010年4月から3年間、開講しました。現在、講座としては存在していませんが、業務内容は変わらず、関連講義数も20コマに増え、その講義資料は、

<http://www.jichi.ac.jp/kanwairyou/curriculum.html>に公開しています。医師国試直前補講の資料も含めご活用いただければ幸いです。

もちろん、緩和ケア部の活動は、医学生教育や国試向けの情報提供だけではありません。緩和ケアを研修する実践の場として、最適な場です。当院は緩和ケア病棟を有する数少ない大学病院で、しかも緩和ケアを指導できる医師が、カナダで緩和ケア研修を行った総合内科専門医で教授の丹波をはじめ、指導する者が十分におります。毎年、10名前後の研修医が緩和ケア研修を受けている他、専門医を目指す医師も研修しています。

緩和ケア病棟の入院患者数は年間150名前後、入院および外来へのコンサルト症例は400例を超えます。医師、歯科医師、看護師、薬剤師、臨床心理士、管理栄養士、作業療法士、理学療法士、歯科衛生士など多職種が、緩和ケア病棟でも緩和ケアチームでも効果的に連携し機能しています。

超高齢社会を迎え、非がんの緩和ケアも重要になってきます。一般病棟からの緩和ケアチームへのコンサルトはもちろんのこと、緩和ケア病棟での月単位の研修をお受けください。専門医志望の方は、在宅緩和ケアを含め、年単位で充分学んでいただくことができます。

上記の資料が国家試験への一助になることを祈るとともに、当院での研修を心から歓迎しております。連絡や質問は、kaitamba@jichi.ac.jpまでどうぞ。



前回のオリジナル問題と解説です。いかがですか？

まずは腎臓内科からの出題と解説です。

問題：

60歳の男性。2か月前から全身倦怠感と下腿浮腫を認め受診した。尿所見：尿蛋白（±）、潜血（-）、尿蛋白定量 150 mg/dL、尿中尿素窒素 10 mg/dL、尿中クレアチニン 50 mg/dL、血液生化学所見：Hb 10.5 g/dL、T.P 6.5 g/dL、alb 2.2 g/dL、BUN 30 mg/dL、Cr 1.2 mg/dL、Na 138 mEq/L、K 4.8 mEq/L、Cl 98 mEq/L、Ca 9.2 mg/dL。推定される1日尿蛋白量はどれか。

- a 0.15 g
- b 1.5 g
- c 3.0 g
- d 5.0 g
- e 15.0 g

（解答）c

（解説）

試験紙法は簡便であるが、アルブミンを検出するため、Bence-Jones 蛋白や尿細管性蛋白を通常検出できない。試験紙法の結果とスルホサリチル酸法と乖離がみられる場合は、M-蛋白血症の存在を疑う。1日のクレアチニン排泄量が約1gであることを利用し、スポット尿を用いて尿中蛋白量の濃度補正を行い、1日尿蛋白量＝尿蛋白量（mg/dL）/尿中クレアチニン（mg/dL）で求めることができる。クレアチニン値は筋肉量に依存し、女性や高齢者では1g以下となり、1日尿蛋白量を過大評価することがあるので注意する。本症例における1日尿蛋白量は、 $150 \div 50 \text{ mg} = 3.0 \text{ g/gCr}$ と推定される。

難易度（*）

出題者：腎臓内科 小林高久

できましたかいな？次は消化器内科からの出題ですよ。

問題1.

大腸ポリープについて正しいものはどれか。2つ選べ。

- a. 多くは無症状である
- b. 患者数は減少しつつある
- c. 大腸腺腫は癌化しない
- d. 若年性ポリープは成人には発生しない
- e. 診断には下部内視鏡検査が有用である

正解 a, c

解説

- a. ○ 病変が大きくなると、肉眼的血便を呈することがある。
- b. × 食生活の欧米化によって患者数は増加している。
- c. × 前癌病変であり、癌化率は大きさに依存する。
- d. × 小児に好発するが、成人に発生することもある。
- e. ○ 下部内視鏡検査や注腸造影で肉眼的に観察する。

難易度（＊）

出題者：消化器肝臓内科 林 芳和

問題 2.

胆道癌、膵臓癌の危険因子となる疾患は次のうちどれか。2つ選べ。

- a. 膵管内乳頭粘液性腫瘍
- b. 粘液性嚢胞腺腫
- c. 膵胆管合流異常症
- d. 胆嚢コレステロールポリープ
- e. 高血圧

正解：a, c

解説

- a. 経過観察期間中の膵臓癌発症率は5%前後といわれている。
- b. 粘液性嚢胞腺腫自体の癌化はあるが、膵臓癌との因果関係はない。
- c. 約60%で胆嚢癌、胆管癌を発症する。
- d. コレステロールポリープは癌化しない。
- e. 糖尿病患者には膵臓癌が多いが、高血圧は因果関係なし。

難易度（＊）

出題者：消化器肝臓内科 牛尾 純



次は今月のオリジナル問題コーナーです。
出題は循環器内科と神経内科です。

まずは循環器内科からと行きまひよか。

問題1：急性心筋炎と急性心筋梗塞との鑑別に最も有用な検査はどれか。

- a 血清CRP値
- b 冠動脈造影
- c 12誘導心電図
- d ウイルス抗体検査
- e 心筋トロポニンT定性

出題者：循環器内科 星出聡

問題2：70歳の男性。急激に悪化する呼吸困難のため搬入された。高血圧で薬物治療中であったが、このところ内服が不規則であった。

意識は清明。努力様呼吸で、苦悶様顔貌を呈している。血圧 204/98 mmHg、脈拍 102/分、呼吸数 30/分、経皮的動脈血酸素飽和度(SpO₂) 84% (自発呼吸、酸素10L/分投与下)。頸静脈怒張あり。両側全肺に coarse crackles を聴取する。明らかな心雑音は認めない。下腿に軽度の浮腫を認める。四肢末梢に冷感なく、チアノーゼも認めない。胸部エックス線写真を別に示す。

この患者にまず行うべき治療はどれか。

- a 気管内挿管
- b カテコラミン投与
- c カルシウム拮抗薬投与
- d 非侵襲的陽圧換気(NPPV)
- e アンジオテンシン受容体拮抗薬投与



できましたかいな？次は神経内科からの出題です。

問題 1.

55歳の男性。1週間前から複視を訴えて来院した。MRA 検査にて右後交通動脈に動脈瘤が見つかった。この患者で見られる可能性の高い眼症状はどれか。3つ選べ。

- a. 右瞳孔散大
- b. 右眼瞼下垂
- c. 右眼球外転制限
- d. 右対光反射消失
- e. 右耳側半盲

問題 2.

末梢神経障害の副作用に注意すべき薬剤はどれか。2つ選べ。

- a. バルプロ酸ナトリウム
- b. ジギタリス
- c. イソニアジド
- d. シスプラチン
- e. テオフィリン

出題者：神経内科 小出玲爾



レジデントの声を紹介するコーナーです。今回は消化器内科を回っているレジデントの声です。

消化器内科で内視鏡を主として勉強させていただいています。内視鏡の使い方から所見までご指導いただき、今では一日あたり5件前後は上部消化管内視鏡検査をしています。最近では検査レポートも書かせていただけるようになりました。病棟の患者さんに関しても胃潰瘍など common disease から特殊な症例まで幅広く、大変勉強になります。先生方も非常に熱心に指導してくださり、とてもやりがいのある科だと思います。 S1 高見 博人

消化器内科をローテーションし、早2ヶ月の月日が過ぎようとしています。消化器内科は急性から慢性まで、幅広い疾患の方が入院してきます。入院患者が多く忙しい日々の中でも和気藹々と活気ある雰囲気、とても恵まれた環境で仕事ができていると感じています。内視鏡日など、検査にも参加することができ、教育に熱心なところも非常に魅力的なところの一つです。残り1ヶ月間しっかりと勉強しつつ、楽しみたいと思います。 J1坂田知久



2015年度内科通信11月号はいかがでしたか？年の瀬も近づきせわしない時期となりましたな。お酒の飲みすぎ、食べ過ぎには注意して、お過ごしくださいね。わては、相変わらずウイスキーでリラックスさせてもらってます。ほなまた！

連絡先:

〒329-0498

栃木県下野市薬師寺 自治医科大学

腎臓内科 秋元哲（あきもとてつ）

